

## 特集「古生物の復元」

吉川博章\*

第132回化石研究会例会が2009年11月21日から22日に豊橋市自然史博物館にて開催された。この例会では、シンポジウム「古生物の復元」と豊橋総合動植物公園の見学会が行われた。今回の特集は、シンポジウムで発表された4題の講演をもとにまとめてまとめたものである。

このシンポジウムは、豊橋市自然史博物館が2004年に古生代展示室、2008年に中生代展示室を改装したこともあり、博物館における古生物復元について、調査研究や展示、教育普及活動の観点から議論することを目的として企画された。古生物の復元といえは、一般には恐竜をはじめとした大型脊椎動物が取り上げられることが多く、これまで化石研究会では、「東柱類の進化－戸狩標本発見100年および足寄動物化石博物館開館を記念して」(1998年、第16回総会)や「日本の長鼻類化石研究はどこまで進んだか」(2005年、第23回総会)、「日本の恐竜学最前線」(2007年、第128回例会)などのシンポジウムが行われ、脊椎動物の復元に関しても議論されている。豊橋市自然史博物館でも恐竜やマンモスに関する復元についてのシンポジウムやイベントを開催してきた。しかし、脊椎動物以外の生物についても復元に関する多くの研究があり、これらを紹介していくことは博物館の教育普及活動として重

要である。そのためシンポジウムでは、植物及び無脊椎動物についての復元をテーマとして、話題提供を行った。

断片的な化石を元にした古生物の復元は、多くの困難を伴う。より正確な復元には、本特集の大野照文氏の報告にも述べられているとおり、保存の良い化石の発見、妥当な研究手法、適切な解釈が重要である。大野照文氏からは、その具体例としてエディアカラ動物群の復元について紹介されている。田中原吾氏による、三葉虫や介形虫の眼の化石に関する最近の研究成果や例外的に保存の良い昆虫の眼の化石の研究も、まさにこの具体例と言える。一方、近年の博物館では、常設展示、企画展、教育普及行事などにおいて、復元された古生物の姿をただ復元図として紹介するのみならず、時には復元の過程をも含めて、観覧者に分かりやすく紹介するための多くの試行錯誤が行われている。本特集では具体例として、松岡敬二氏および吉川による豊橋市自然史博物館での無脊椎動物と植物の復元と展示手法に関する報告が掲載されている。

この特集が、これから古生物を復元しようという研究者の指針として、また古生物への興味関心を高めるような、博物館展示や教育普及活動の一助となれば幸いである。

---

\* 〒441-3147 豊橋市大岩町字大穴1-238 豊橋市自然史博物館

Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi City, Aichi Prefecture 441-3147, Japan

E-mail: yoshikawa-hiroaki@city.toyohashi.lg.jp